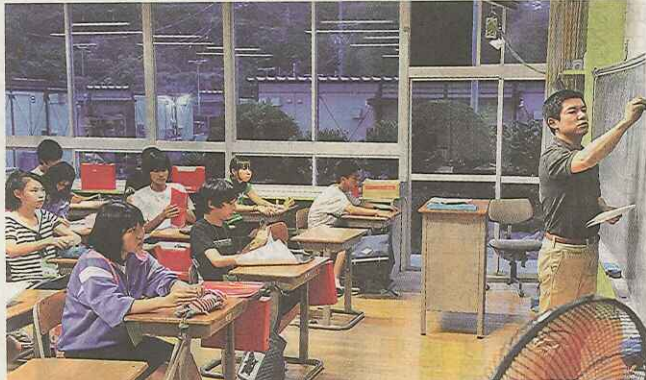


# 被災地夏休みしわ寄せ



避難所などにいる子どもたちのために開かれている夜間学校。外には仮設住宅が並ぶ＝19日、宮城県女川町で（池田まみ撮影）

東日本大震災で被災した学校の多くが、夏休みを短縮したり延長したりする異例の対応を迫られている。岩手県陸前高田市では例年三週間ある夏休みが、最長で九日間も短縮。学校が避難所となり、一学期の開始が遅れたためだ。避難生活で勉強に集中しづらい環境を改善しようと、夜間学校を開くなどの支援も広がっている。（奥田哲平）

体育館が避難所とな君（四）は「震災で授業が、校庭に仮設住宅が並遅れているので仕方ない。陸前高田市の第一中学です」と話す。

例年ならあと数日で迎える夏休みは九日間短縮され、八月五～十七日

のわずか十三日間に。授業を終えた二年小林大亮

## 短縮遅れ授業が 陸前高田

町立志津川小学校が十四日間短縮されるのを最長に、沿岸被災地の多くで短縮が決まった。

逆に、福島県では福島第一原発事故の影響で延長する自治体も。福島市は「校庭の表土除去作業で放射性物質が舞い上がる恐れがあり、窓を閉め切らざるをえない。暑い時期は学習するには厳しすぎる」と七日間延長する。

高校受験を控える中学生には授業の進み具合に不安の声もあるが、「子どもの安全を優先した

## 延長で事故原発

「いと市教委担当者。代った」と笑顔を見せる。わりに冬休みを五日間短縮する。授業料は当面無料。バス送迎もある。

こうした状況に、子どもたちを学校の外から支で仕事場を失った地元の塾講師ら。雇用確保も兼ねる取り組みだ。自宅が

避難所になっている宮城県女川町の第一小学校。夕方になるとジャー姿の生徒が続々と集まる。空き教室を利用し、七月から始まった「女川向学館」。町内の小中学生の三分の一に当たる約百八十人が通う。自宅が流された中学二年阿部ももさん（四）は「親類の家にいるので勉強しづらかった。夜間学校の授業は分かりやす

く、集中できるように給料が支払われる。

## NPO 夜間学校で支援